



NGO サポート募金 ロゴマーク プロボノデザイン公募

- あなたのデザインで、世界のためにできること -

国際協力 NGO センター (JANIC) は、運営する「NGO サポート募金」のリニューアルに伴い、新たな象徴となるロゴマークを募集します。

応募作はファブリックデザイナーとして活躍している有田昌史氏と、NGO/NPO 向けのファンドレイジングサポートを手がける菅文彦氏が審査します。

7人に1人が5歳未満で命を失っているアフリカをはじめ、14億人が1日1.25ドル未満(約100円)で暮らす途上国。こうした人々を支援するために、多くの日本の国際協力 NGO がアクションを起こしています。

採用されたロゴマークは、こうした国際協力 NGO の活動をアピールし活動資金を募る「NGO サポート募金」の顔として、JANIC が責任を持って使用します。

プロボノとは、特定のスキルや経験を生かしたボランティアのことです。

あなたのデザインで、世界のためにできることがあります。たくさんのご応募をお待ちしています。

- 応募期間 2010年7月16日(金)～8日15日(日)
- 応募資格 どなたでも応募できます。
- 用途 採用されたロゴマークは、NGO サポート募金サイトコンテンツ <http://www.janic.org/bokin/>、及び加盟 NGO 団体のウェブサイト(リンクバナー)、また関連する印刷物等(JANIC スタッフ名刺、封筒、チラシ等に使用し、ブランディングと知名度向上に役立てます。
- 募集内容 NGO サポート募金をイメージしたロゴマーク。「NGO サポート募金」の文言が入っているバージョンと、入っていないバージョンの2パターン。
- 審査員
 - ・有田昌史氏(図案作家/女子美術大学芸術学部工芸学科講師/グラフィック&ファブリックデザイナー)
 - ・菅文彦(カン フミヒコ)(LLC(合同会社)「コース・アクション」代表
上記2名の審査員のプロフィール詳細は添付資料1をご参照ください。
 - ・JANIC スタッフ1名
 - ・JANIC コース(学生団体)1名
- 特典 採用作品制作者は同募金サイトや JANIC 会報誌等にてインタビュー原稿やその他の作品を掲載させていただきます。

●応募条件

- ・「NGO サポート募金」の文言が入っているバージョンと、入っていないバージョンの 2 パターンの作品をお送りください。
- ・応募作品のサイズは原則 1 作品につき 2 MB 以内、JPEG 形式での提出とします。
- ・デザインに関する説明も一緒にお送りください（応募用紙に記載欄あり）。
- ・作品は、未発表のものとし、既存デザインの使用や模倣のないものとします。

●応募に関する諸注意

- ・作品の採用が決定された時点で、著作権及び知的所有権は JANIC に譲渡されたものとします。
- ・応募作品は返却いたしません。
- ・最終的に採用された作品に対して、使用する上で必要な修正・補正・アレンジをすることがあります。
- ・最終的に採用された作品は、イラストレータ形式でのデータもお送りいただきます。
- ・応募にかかる費用は応募者をご負担ください。
- ・採用作該当なしとある場合があります。
- ・すべての応募作（採用されなかった作品を含む）は、選考課程を伝える JANIC のウェブサイト、印刷物等で公表することがあります。

●応募方法

メールにて、応募用紙と作品データを添付し、ngo-bokin@janic.org あてへ送信してください。応募用紙も添付してください。

作品サイズは原則 1 作品につき 2 MB 以内、JPEG 形式での提出とします。

「NGO サポート募金」の文言が入っているバージョンと、入っていないバージョンの 2 パターンの作品を提出ください。

必ず件名に「プロボノロゴマーク」と記載してください。

●主催 特定非営利活動法人国際協力 NGO センター(JANIC)

問合せ先 電話：03-5292-2911、FAX：03-5292-2912 e-mail：ngo-bokin@janic.org

必ず件名に「プロボノロゴマーク」と記載してください。

●NGO サポート募金について

添付資料 2 . またはウェブサイト <http://www.janic.org/bokin/> をご参照ください。

●JANIC について

添付資料 3 . またはウェブサイト <http://www.janic.org/> をご参照ください。

添付資料1.

審査員プロフィール

プロボノでご協力いただいている2名の審査員の方々をご紹介します。

有田昌史（アリタマサフミ）氏

1966年（昭和41年）出雲生まれ。

図案作家。女子美術大学芸術学部工芸学科講師。

グラフィック&ファブリックデザイナー。

旅先や散歩先で日々描いているスケッチをもとに、プリントファブリックやグラフィック作品を製作。世界各地のフォークロアモチーフに秘められた意味や布が持つ未来への技術や表現の可能性を探索中。

blog [artgene blog/ocn](http://artgene.blog/ocn)

twitter <https://twitter.com/Izumonesia>

菅 文彦（カンフミヒコ）氏

LLC（合同会社）「コース・アクション」代表

1970年生まれ。1997年に財団法人オイスカに入る。2001年に日本で初めての募金決済ポータルサイト「ぼきんやドットコム」を公開。2005年にヤフー株式会社に入り、Yahoo!ボランティア「インターネット募金」など社会貢献・CSR関連のサービス企画を担当。2010年春、LLC（合同会社）「コース・アクション」を設立。NPO向けのファンドレイジングサポート・企業CSRコンサルティング・寄付アプリケーションの企画開発等を推進。

blog http://blogs.yahoo.co.jp/cause_action

twitter <https://twitter.com/ebreakthrough>

ほんの少しの資金サポートで、苦しみから抜け出せる人たちがいます。
そんな人たちのために、具体的にアクションを起こしているNGOがあります。

NGOサポート募金とは

● 複数のNGOへの一括寄付システム

- 8つの活動分野に分けた「まとめて募金」が人気です。



子ども、おとなも、学べるように

教育支援 まとめて募金



生まれた村を元気にしたい

農業・農村開発 まとめて募金



だれもが健康でいられるために

保健医療支援 まとめて募金



地球の環境を守りたい

環境保全・環境教育 まとめて募金



争いのない世界をつくるために

平和構築・難民支援 まとめて募金



すべての女性が
笑顔で暮らせますように

女性の自立支援 まとめて募金



子どもの生活を守りたい

保護が必要な子どもの生活支援 まとめて募金



一緒に考よう、意見を言おう

ネットワーク・提言活動 まとめて募金

- JANICが各加盟NGOに等分配してお届けします。
- 緊急災害時には「緊急支援まとめて募金」を立ち上げます。
- 2009年度寄付額24,359,786円

● 特徴

- わかりやすさ
 - NGOサポート募金なら個々のNGO団体のことはよくわからなくても簡単に寄付できます。
- 信頼性
 - 'NGOサポート募金'は、厳格なJANICの正会員基準を満たし、JANICの理事会で承認されたNGO団体のみで構成されています。
- 市民社会の育成
 - 'NGOサポート募金'は、JANICを通して、寄付金が加盟NGO団体に等分に分配されず、支援者の寄付で幅広く草の根レベルのNGO活動が活性化され、日本の市民社会の育成に貢献することができます。

(特活) 国際協力NGOセンター (JANIC) とは

JANICは日本最大規模のネットワークNGOです。
NGOと市民・他セクターをネットワークすることで、

- もっとNGOの活動を活発にします
- もっとNGOの声を大きくしていきます
- もっとNGOのことをわかりやすく伝えます
- もっとNGOと市民が出会う場をつくれます



JANIC 団体概要



団体名	特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター (JANIC) (英文名称) Japan NGO Center for International Cooperation
事務所	所在地: 〒169-0051東京都新宿区西早稲田2-3-18 アバコビル5F TEL: 03-5292-2911 FAX: 03-5292-2912 開所時間 月～金: 9:30～17:30 (NGO市民情報センター開館時間は13:00～17:00) 土日・祝祭日休み
設立	1987年10月
法人格取得	2001年3月(特定非営利活動法人、所轄庁:東京都)
運営	理事長: 大橋正明 事務局長: 山口誠史 役員・顧問数: 役員21名(理事17名 / 監事2名 / 顧問2名) 事務局員数: 23名 (有給専従職員15名 / 有給非専従職員1名 / インターン7名) ボランティア数: 約10名

JANIC沿革

1987年10月	任意団体として「NGO活動推進センター (JANIC)」誕生
1988年4月	『NGOダイレクトリー』初版発行
1995年1月	社会に対して責任あるNGO活動を説いた 「NGO行動指針」採択
1996年4月	NGOと外務省が対話する定期協議会スタート
1998年10月	NGOと国際協力機構(JICA)が対話する協議会スタート
2001年3月	特定非営利活動法人格を取得し、 団体名を「国際協力NGOセンター」に変更
2004年9月	「NGO-労働組合国際協働フォーラム」設立
2006年8月	オンラインの寄付サイト「NGOサポート募金」開設
2007年1月	「2008年G8サミットNGOフォーラム」設立 (2008年12月解散)
2008年4月	「CSR推進NGOネットワーク」設立
2008年9月	「ODA改革パブリックフォーラム」正式発足
2009年4月	「アカウンタビリティ・セルフチェック2008」マーク取得
2009年7月	外務大臣表彰受賞
2010年4月	世界の「貧しい」を半分に。MDGs2015キャンペーン開始